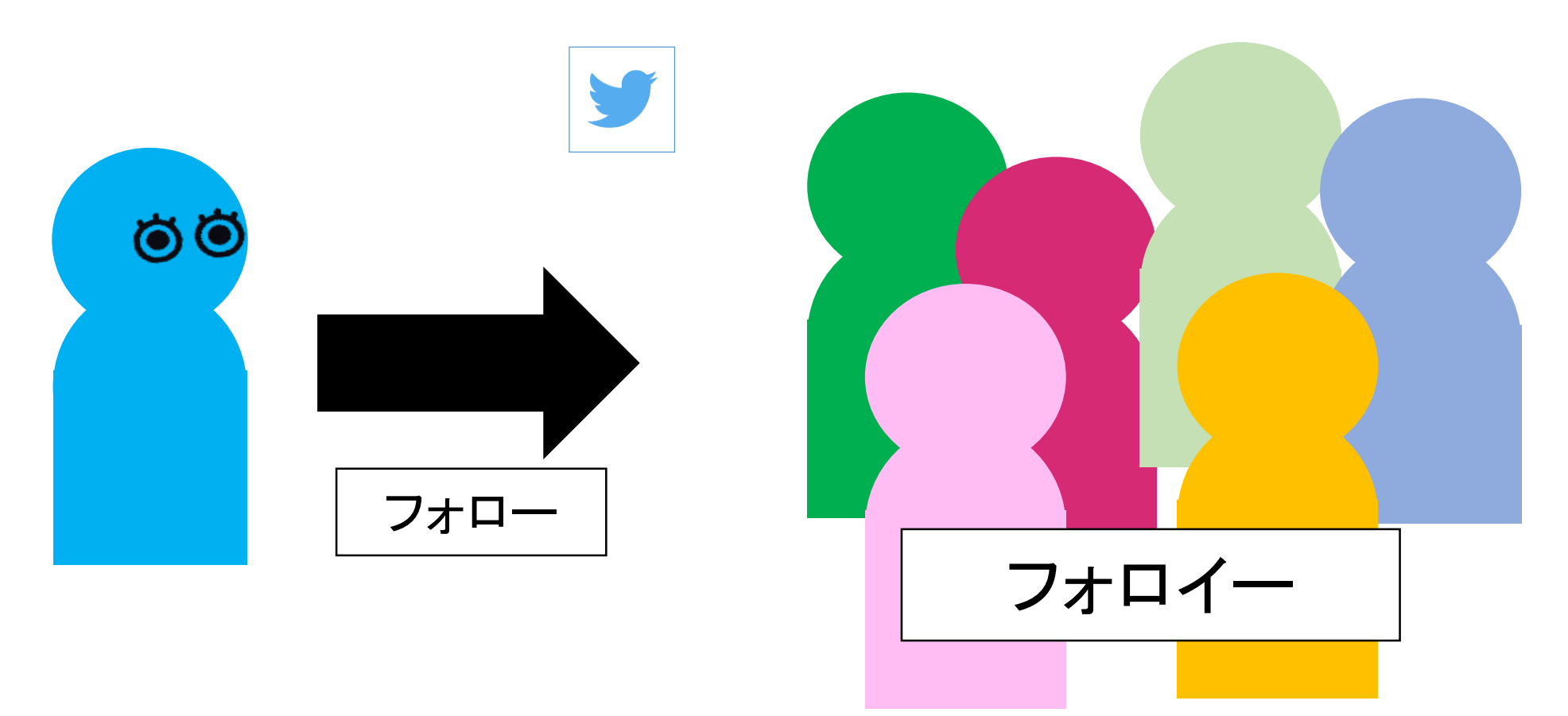


Tweetの 潜在的意味を考慮した可視化に基づく フォロイーの整理支援システム

甲南大学 灘本研究室B4 見塚 圭一

背景



昔は興味があった話題だが、現在は興味がなくなっており、フォロー理由がないフォロイーが存在することがある。

目的

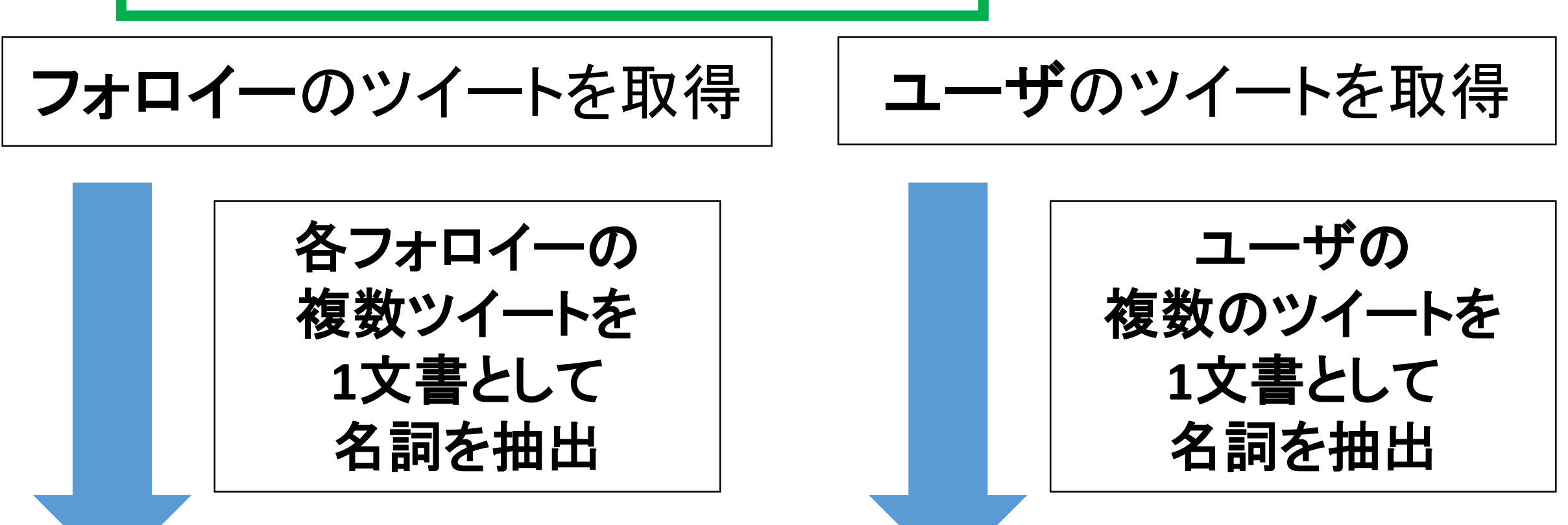
時と共にユーザの興味は変化していくために、**興味離れたユーザをフォローしていることがある。**

必要のないフォロイーを削除する支援を行うシステムの提案

手法

フォロイーとユーザの興味空間を同じ平面上に提示する。

提案手法



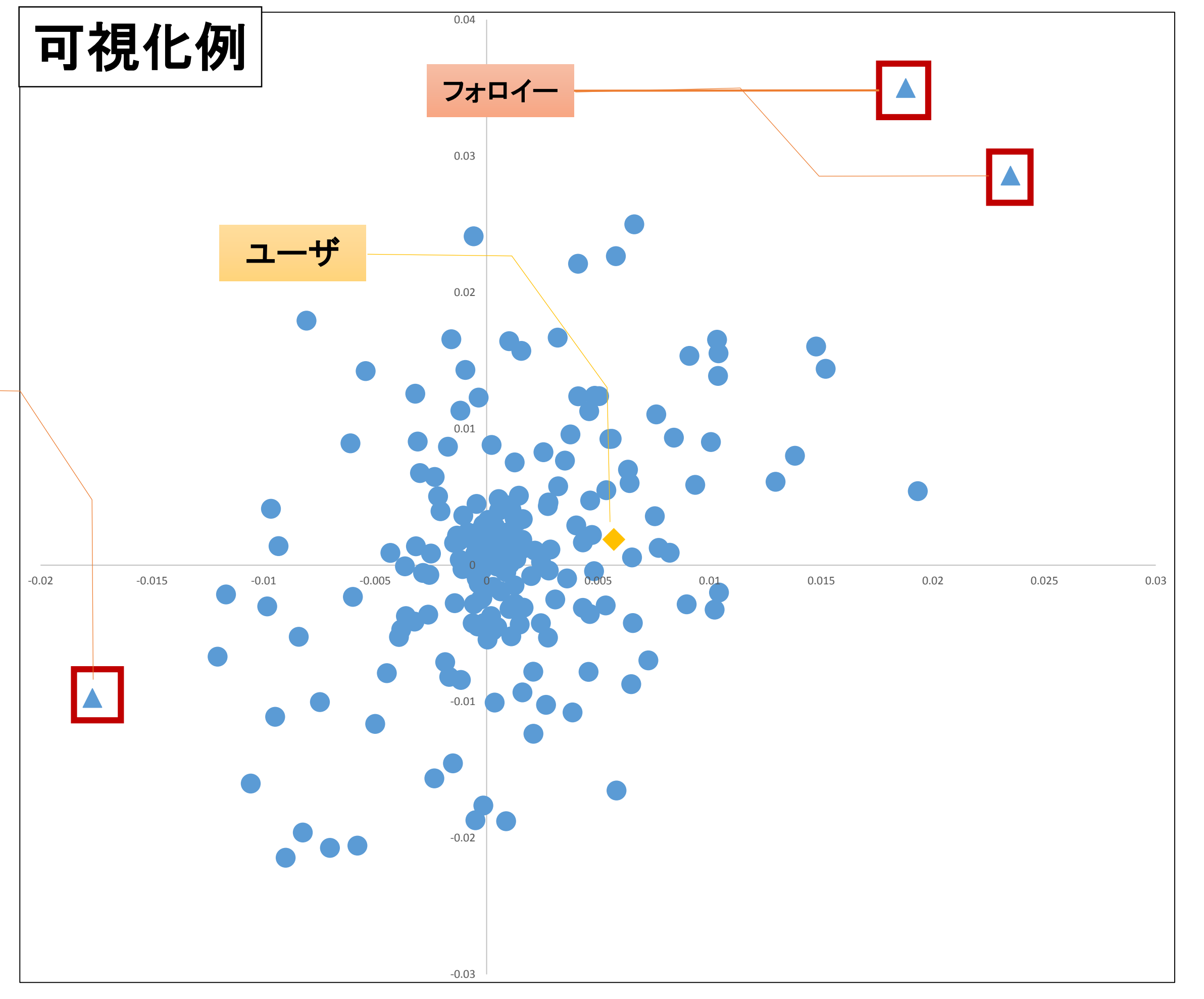
[1]PLSVを用いて可視化

座標間の距離に基づき、ユーザにフォロイーとのツイート内容の距離を提示する。

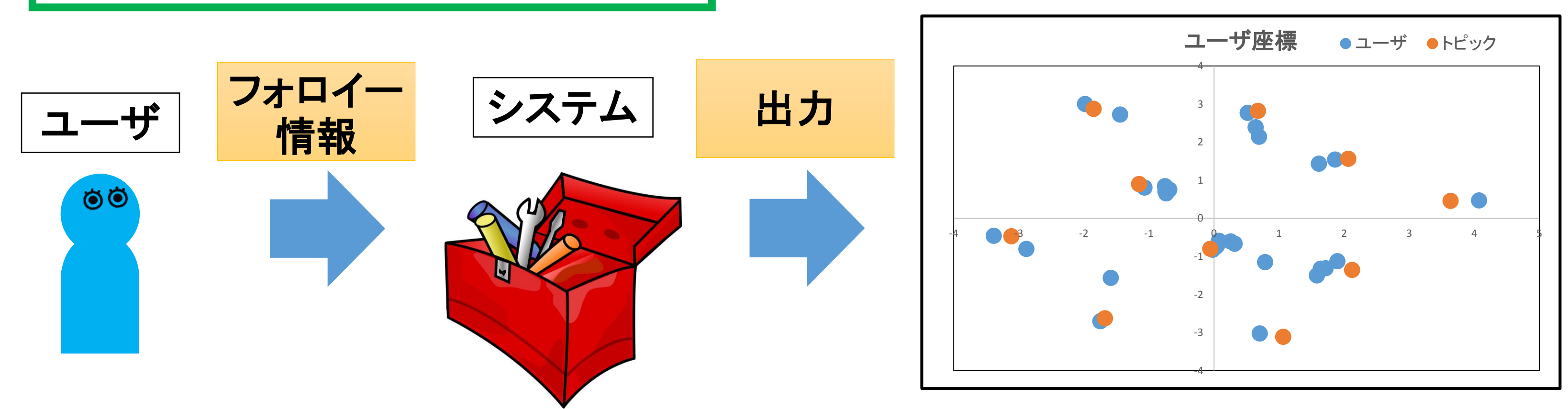
[1]PLSV: Probabilistic Latent Semantic Visualization

文書およびトピックが、2次元もしくは3次元ユークリッド可視化空間に座標を持つと仮定し、それらの座標をもとに文書が生成されると考える手法。

可視化例



システム設計(案)



各点はユーザを示し、マウスカーソルを合わせると、ユーザの主題語、名前、ツイート数など詳細な情報を見ることができる。

トピック付近には似たユーザが集まっている。

フォロイーをクリックすると、フォロイーのフォロイー分布を見ることができる。

まとめ

日々変化するフォロイーの興味に対応し、ユーザの興味と離れてしまったフォロイーを提示し、フォロイーの整理支援をするシステムを提案する。

今後の課題

- どれほどの精度で、文書を座標に表現できているのかを検証
- 座標の距離=興味の距離としてもよいのかの検証